

文化財だより

NO.4



発行 ● 太田市教育委員会 発行年月日 ● 平成18年3月31日 編集 ● 太田市教育委員会文化財課
住所 ● 群馬県太田市粕川町520 電話 ● 0276-20-7090

合併記念文化財企画展示事業

ハニコレ2005

～古代女性 ◆ 美へのあこがれ～

合併記念事業のひとつであるこの展示会は、新「太田市」の文化財を広く周知することを目的として開催いたしました。



イメージキャラクター



ポスター

今回は会場となったイオン太田ショッピングセンターの客層である若い女性たちに焦点をあて、テーマを「古代女性・美へのあこがれ」とし、復元したきらびやかな古代衣装やアクセサリを数多くそろえ、埴輪や土器もまるで店頭ディスプレイのように展示をしました。華やかさ、親しみやすさに年齢を問わず多くの方が引き込まれたようです。

また土日・祝日には、ハニワキーホルダーづくりや古代衣装を着てのプリクラ撮影会を開催。体験できる展示会に好評の声が多数寄せられました。



史跡 **金山城跡** の最新情報

「未完成の城」だったか!? 西城

- 調査場所：太田市金山町40-25
- 調査期間：平成17年9月12日～平成18年2月24日
- 調査面積：350㎡



西城北土塁から西城曲輪を望む

平成17年度は、西城曲輪における曲輪造成面や土層堆積状態を確認するための調査を行いました。

調査の結果、西城曲輪では建物の柱穴や礎石等は全く見られず、「空間的には何もない、自然のまま」の状態でした。

しかし、西城曲輪の中央から西寄りにある「盛土状遺構」では人為的に盛り上げられていたことが明らかになりました。なお、この「盛土状遺構」の裾部からは永楽通宝が、盛土内からは火縄銃弾丸が出土しました。

西城曲輪は、「盛土状遺構」を除いて、自然地形をそのまま残していることから、曲輪面の造成途中で『未完成』のまま放置された城だったようです。



盛土状遺構裾部出土の永楽通宝



盛土状遺構内から出土した火縄銃弾丸



西城曲輪内の盛土状遺構の段面

馬場下曲輪への「通路跡」を発見!!



馬場西腰曲輪で確認された通路跡

- 調査場所：太田市金山町40-48・49・50
- 調査期間：平成17年8月1日～9月9日
- 調査面積：50㎡

馬場西腰曲輪での排水工事に伴う発掘調査では、東から西の馬場下曲輪へ向かうスロープ状の通路が見つかりました。

通路は、新旧2時期あったことも明らかになり、いずれの時期も火災の痕跡が見られました。



金|山|城|跡|整|備|事|業|



西矢倉台西堀切の西側旧通路の植栽による表示



馬場西腰曲輪の排水工事

平成17年度の金山城跡整備事業は、西矢倉台西堀切の西側で確認されていた「旧通路の植栽による表示工」と「馬場西腰曲輪の排水工」を行いました。

西矢倉台西堀切の西側では、発掘調査により西矢倉台西堀切を堀底道にする以前に、棧道から西側へ延びる旧通路が確認されていました。

そこで、この旧通路は、通路部分を「芝と山ツツジにより表示」することにしました。

※この旧通路は、「歩く」ために復元整備したものでは、ありません。

一方、馬場曲輪西側では、馬場曲輪内で復元した石組排水路から流れる雨水により、石階段を浸食し、結果的に、管理道南斜面が崩壊する結果をもたらしてしまいました。

そこで、馬場西腰曲輪において、石組排水路から流れる雨水を暗渠により排水する工事を行いました。

保|存|管|理|計|画|

史跡金山城跡は、平成14年9月に北城（坂中城）、八王子山ノ砦、大手道、土屋敷などの主要な曲輪群を含む97.8haに追加指定されました。それに伴い平成15年度から新たな「保存管理計画書」策定の基礎資料とするため、4カ年計画で金山城跡の現況遺構測量を実施しています。

平成17年度は、その3カ年目で、大手道周辺、実城北裏周辺について測量図化を行いました。



測量した大手道周辺の航空写真

金|山|城|跡|の|公|有|地|化|

金山城跡は、昭和9年に国の史跡として18.3haの範囲が指定されましたが、その後、平成14年に追加指定され、指定面積は約5倍の97.8haに広がりました。この中には民有地が存在しており、城跡遺構群の保存管理と調査・整備の推進を図るため、現在、その公有地化を行っています。

平成17年度は11.3haを公有地化し、これにより、公有地面積は約82.1ha、公有地化率83.9%となりました。引き続き平成18年度以降も公有地化を進め、史跡金山城跡の保護と整備・活用の一層の推進を図っていきます。

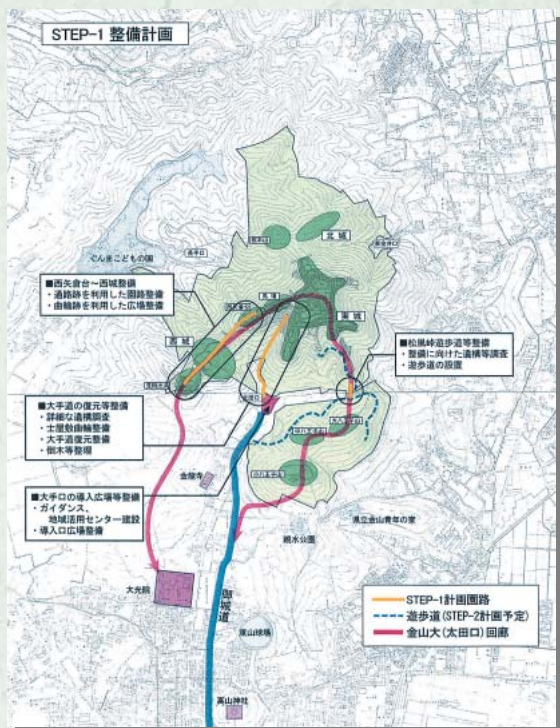


史跡「金山城跡」の最新情報

第2期整備基本計画

平成17年度に策定した「史跡金山城跡第2期整備基本計画」は、金山城の「大回廊の復活」とも言うべき金山全体の回遊性の復活を軸に、“総合的な環境保全と拠点整備”を目指す整備計画です。

そして、この金山城跡第2期整備では、ボランティアやNPO等を中心とする市民全体がその主役と考え、人づくりからまちづくりへの発展まで視野に入れた整備計画となっています。



第2期整備の「STEP-1」整備計画

日本100名城に選定

来年、日本城郭協会が財団法人となって40周年を迎える記念事業として、文部科学省・文化庁の後援を得て企画された「日本100名城」の一つに金山城が選定されました。

来年、5月中旬からは、100名城を探访するスタンプラリーが開始されるそうです。

金山城跡投句箱

俳句の吟行を通して、歴史遺産である城跡や金山の自然・眺望などのすばらしさを再発見すると同時に思い出を残していただくため、金山城跡南曲輪休憩所内に投句箱を設置しました。

投句箱は、年4回開き、太田俳壇の協力を得て選定を行い、入選作は表彰するとともに休憩所内に掲示しています。皆さんの投句をお待ちしています。

入選作品

大けやき薄暑のほてり癒しけり
風五月先客のいる物見台
老鶯や屋根に石置くかまど跡
頂きに秋空映す池ふたつ
城跡にむかし色した秋の風
日の池の水面に映す秋日傘
ジュニアの部
石垣に葉っぱが遊ぶ春の風
金山でいい汗かいたたからもの
あそんでもあそびたりない
あきのやま

金山城保存会

平成15年に、金山城跡の歴史的景観を自分たちの手で維持しようと発足した「金山城保存会」は、平成17年度も復元整備を完了した箇所を中心に草むしりや清掃活動を積極的に取り組みました。

さらに、ボランティアガイドとしての活動を見据えた学習会や市外研修（埼玉県・寄居町の鉢形城）も行いました。

金山城保存会学習会の様子 ▶





史跡新田莊遺跡の最新情報

史跡新田莊遺跡 | 江田館跡

今回の江田館跡における遺構確認調査は史跡整備事業の計画を進めるために実施された学術調査です。

- 調査場所：太田市新田上江田町925-2他
- 調査期間：平成18年1月4日～3月15日
- 調査面積：280㎡

江田館跡は、木崎台地西端の段丘崖上に立地している南北朝期から戦国期の城館跡です。江田館跡は周囲を堀と土塁によって守られた本丸と、西にある二の丸が現在史跡に指定されています。

今回の調査では、曲輪や土塁を溝状に深掘りして土層の堆積状態を確認しました。その結果、曲輪や土塁は、館が造られる前に堆積していた旧表土の上に造られていることがわかりました。また、土塁は盛土の中にローム土が含まれていることから、周囲の堀を造るときに発生した土などを盛って造られていることがわかりました。さらに、旧表土の下からは、古墳時代前期の住居跡や古墳の周溝も見つかり、館が造られる以前にも人々の生活があったことがわかりました。

見つかった遺物には、館があった当時使用されていたカワラケや小形の硯があり、また、曲輪の耕作土や土塁の盛土の中から円筒埴輪片や、縄文時代の矢じりなど館以前の遺物もありました。



史跡新田莊遺跡 江田館跡（上空から）



土塁盛土の状況（北東から）

重殿水源関連遺跡

- 調査場所：太田市新田市新野町地内
- 調査期間：平成18年1月23日～2月27日
- 調査面積：約220㎡



確認された溝跡（東から）

史跡新田莊遺跡の一つである「重殿水源」の周辺において、周辺整備事業が計画されていることから、事前に整備計画地内の重殿水源に関連する埋蔵文化財の確認調査（トレンチ調査）を実施しました。当該場所は、重殿水源に南隣する場所です。

この確認調査で、水源の南側の地形は南西方向に向かって低くなっており、砂層の堆積なども見られることから西側には重殿水源から続く低湿地か、幅の広い溝状の水流があったことが確認されました。また、重殿水源から流れ出したものなのかは明瞭ではありませんが、南北方向の溝跡が5条確認され、一部の溝からは近世の陶磁器片が出土しました。

今回の確認調査で、史跡新田莊遺跡の整備実施設計に向けた基礎資料を得ることができました。



史跡新田莊遺跡の最新情報

新田莊遺跡の整備

合併前の平成16年度に用地買収した生品神社脇用地の適切な管理と有効利用を図るため、平成17年度に、生品神社の仮設駐車場整備を行いました。



生品神社の仮設駐車場整備

反町館跡の堀では、合併前から「落ち葉と悪臭」に対する苦情があり、懸案事項となっていました。そこで平成17年度に、堀の浚渫工を行いました。



反町館跡の堀浚渫

保存管理計画（測量）

これまで、史跡新田莊遺跡は、文化庁の指導のもとで、群馬県及び合併前の太田市・尾島町・新田町の旧1市2町が連携して活用事業を行ってきましたが、その保存・管理については旧1市2町がそれぞれで行っていました。

しかし、平成17年3月28日に合併して、新たな

「太田市」が発足し、1つの自治体として史跡新田莊遺跡全体の一元的な保存・管理が可能となったため、3力年で「保存管理計画」を策定していくことになりました。

平成17年度は、その1力年目で、長楽寺境内及び反町館跡について測量図化を図りました。



長楽寺境内航空写真



反町館跡



『10代のコメント』

★普段ではほとんど見ることで
できないものを身近に見ることが
できて良かったと思います。またイ
オンの中にあるということもあ
って、買い物ついでにちょっとした
勉強をすることができました。

★体験できたことがとても楽し
くて、いい思い出になりました。あ
りがとうございました。



『30代のコメント』

★博物館とは違う展示方
法でとても新鮮でした。
服の体験も楽しかった。
また、お願いします。

★ハニワは不思議な魅力
がありますね。子どもに
本物をみせてあげられて
よかったです。



『50代のコメント』

★楽しく古代が紹介されて
おり、子どもたちも楽しく
古代を学べたと思う。

『60代のコメント』

★展示がユニーク、堅苦
しいものから現代にマ
ッチした内容。これ
からも展示願います。



『20代のコメント』

★仕事帰りにミニ博物館に
来れてよかった。

★会場に入った瞬間に、全
体が華やかでとっつきや
すい印象を受けました。
会場も対応なさっていた
スタッフもいわる役所
っぽくなくて居心地が
よかったです。これって
実は凄いことだと思
います。

合併記念文化財企画展示事業 ハニコレ2005 ～古代女性 ◆ 美へのあこがれ～

『40代のコメント』

★土器を「なべ」と呼ぶのは
なかなかよい。服も楽し
めた。

★身近なところで出土した
ものだと思うと少し不
思議です。

★古代の生活・文化がわか
りやすく紹介されて
いて、目からうろこが
おちました。



『ハニコレ2005』の
詳細は
次のページで!!



ハニコレ2019

普段はガラス越しにしか見られない文化財を間近に



古代の仮面でつくったオブジェ

モニターでは古代の衣装を身にまとった女性の幻想的なスライドショーが…



縄文の耳飾りのコーナー



美しく復元された古代衣装の数々。これらの衣装を着てプリクラの撮影をしました！



このコーナーの古代アクセサリ（復元）等は実際に身につけることができました。



高松塚古墳壁画から復元した衣装
～衣装製作～ 左・阿部芳子さん（明和学園短期大学教授）／右2点・足立弥栄子さん





5 大解剖図

見ることができるのも「ハニコレ」の特徴です!!

～展示品～

- 土製耳飾り
- 動物の角のかんざし（復元）
- 勾玉・管玉
- 石版 など



古代の織物“あんぎん”と編み機



円筒埴輪（本物）とライトを使ったオブジェ



太田市内出土の埴輪たちと古代のうつわの数々



さかいひろこさん提供の縄文衣装のスライドショー



大盛況のハニワキーホルダーづくり



群馬県指定重要文化財
世良田諏訪下古墳群の埴輪たち
※一緒に飾られている人形たちは手作り。
最終日に抽選をおこなってプレゼントしました。



新田荘

ふれあ、探検スタンプラリー

スタンプラリーの素敵な楽しみかた

7月21日～8月31日（夏休み期間）に24カ所中、18カ所以上のスタンプを専用のスタンプ帳に押した方には記念品をプレゼント(^3^)



正法寺（脇屋町）



スタンプ帳のクイズ正解者には「ハニワのペーパークラフト」が！



記念品のアニマルキーホルダー



重殿水源（新田市野井町）



西山古墳（藪塚町）

～スタンプラリー自由帳より～

- ・金山1年ぶりです。疲れたな～。大ドジな子がスタンプ帳を車の中へ忘れてあれ!! どうしましょう…。
(金山城跡)
- ・ハスの花がきれいです。今日も風が爽やか、まだまだがんばるぞ～！
(明王院境内)
- ・水の中に入りたい、涼しいだろうな～。
(矢太神水源)
- ・自然がいっぱい蚊もいっぱい。
(中原生品神社境内敷石住居跡)



●文化財講演会

- と き：平成18年2月19日（日）
午後1時30分
- ところ：太田市学習文化センター視聴覚ホール
- 参加者：210名

●基調報告「太田市矢部遺跡出土の漆紙文書」

（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団の高島英之先生に、只上町の矢部遺跡から出土した漆紙文書について、基調報告をしていただきました。この漆紙文書は、奈良時代後期と考えられる住居跡から出土したものです。当時紙は貴重なものでした。蓋紙には、役所などで不用になった公文書が再利用され、そこに古代の暦が書かれていたことなどをわかりやすくお話をいただきました。

●講演「古代の暦から人々のくらしをよみ解く —太田市矢部遺跡の漆紙文書をととして—」

東京大学大学院教授の佐藤信先生からは、豊富な知識をふまえた絶妙な語り口で、古代では暦が国家による支配の道具として使われていたことなどのお話がありました。

講演後の質疑応答でも質問者に誠意を持って回答される佐藤先生がとても印象的でした。



高島英之先生



佐藤 信先生

●史跡めぐり

今回は、市民に新太田市の文化財を理解してほしいということで、「新太田市をめぐる旅」で旧1市3町を代表する国史跡である金山城跡、新田荘遺跡の生品神社・東照宮・長楽寺、県重要文化財であるさざえ堂、藪塚本町歴史民俗資料館、東毛歴史資料館をめぐりました。

太田市のシンボルである金山城跡の見学では、山々に霧がかかり、参加者はその幽玄な風景に感動していました。

また、それぞれの見学地で新しい発見があり、内容の濃い研修となりました。熱心な説明者の話しに刺激を受け、文化財の勉強をしたいという意欲的な参加者が多く見受けられたからです。

普段あまり接することのない新太田市をめぐる

ことにより、重要な文化財が数多くあることが参加者に認識していただけた充実した一日となりました。



紅葉の生品神社境内にて



● 北部スポーツ公園内遺跡群(第1・2次調査)

- 調査場所：太田市上強戸町地内
- 調査期間：平成17年2月15日～7月29日(1次)
平成17年8月1日～
平成18年3月24日(2次)
- 調査面積：(1次調査) 4,800㎡
(2次調査) 8,530㎡

北部運動公園造成に伴い、区域内の遺構確認とその記録保存を目的に発掘調査を実施しました。

1次調査では、古墳時代前期の竪穴住居跡9軒と古墳時代後期の古墳1基などを調査しました。また、2次調査では古墳時代前期の竪穴住居跡12軒、方形周溝墓5基、古墳時代中期から後期の古墳3基などを調査しました。

調査した結果、古墳時代前期の竪穴住居跡はほとんどが火災にあっていたことがわかり、その他に方形周溝墓は丘陵の尾根上、古墳は南斜面上に造られているということがわかってきました。



第2次調査D区全景(上空から)



第1次調査18号遺構で見つかった土器

● いわまつせんざい 岩松千歳2遺跡



調査区南側から見つかった平安時代の集落



調査区北側の中世から近世の発掘調査風景

- 調査場所：太田市岩松町地内
- 調査期間：平成17年2月14日～12月13日
- 調査面積：10,800㎡

尾島親水公園造成工事に伴って実施した発掘調査で、古墳時代の竪穴住居跡1軒、平安時代の竪穴住居跡73軒・溝1条、中世～近世の館状区画溝1条・掘立柱建物1棟・竪穴状遺構11基・土坑470基・溝19条・井戸27基・地下式坑2基などたくさんの遺構が確認されました。平安時代の集落は、調査区南側から竪穴住居跡が数多く発見され、当時の高級品である灰釉陶器の皿・椀・小瓶や超高級品である緑釉陶器の取手の付いたつぼが出土しました。

中世から近世の屋敷跡は、調査区の東側と北側から見つかり、屋敷のまわりを区画した溝や柱穴が並ぶ建物跡、井戸跡、またさまざまな形の穴(土坑)が集中して造られていました。



●北関東自動車道関連遺跡

- 調査場所：太田市西長岡町地内
- 調査期間：平成17年9月1日～
平成18年2月17日
- 調査面積：約7,000㎡

北関東自動車道側道整備に伴って実施した発掘調査で、縄文時代後期（約3,500年前）の土器片が多数見つかり、その他に、奈良～平安時代と推定される竪穴住居跡1軒や複数の川の跡（河道）が確認されました。旧河道に埋まっていた土の中には、縄文時代早期末（約7,000年前）の土器片も含まれていました。



旧河道全景（東から）

●にいのわきや新野脇屋遺跡群（第12次調査）

- 調査場所：太田市城西町地内
- 調査期間：平成17年8月2日～
平成18年3月23日
- 調査面積：約11,200㎡

住宅団地造成事業（城西の杜）に伴って行なわれた発掘調査で、17年度は城西の杜の北側部分（堂原遺跡地内）を中心に調査を実施し、竪穴住居跡を4軒、溝17条、土坑約200基を確認しました。

遺物は、台付き甕、小型丸底壺など古墳時代初期のものが多数出土しました。



古墳時代前期の台付き甕

現 地 説 明 会

- 実施日時：平成17年12月3日 午前10～12時
- 場 所：太田市岩松町地内
- 遺 跡 名：岩松千歳2遺跡

文化財課では、発掘調査で発見された遺物や遺構に関して、できるだけ一般の方々に見ていただけるように、発掘調査の現地説明会を実施しています。17年度は尾島地域の岩松千歳2遺跡で見つかった、古墳時代～平安時代・近世にかけて造られた竪穴住居跡・土坑・井戸跡・溝・建物跡・墓跡の他に、出土した遺物などを展示して71名の参加者に見ていただきました。



住居とかまどの説明



● 出土遺物整理作業

文化財課では、発掘調査の成果を公開・展示するために、発掘調査後は出土した土器の接合・復元作業を行ったり、復元された遺物の実測・写真撮影等を行い、発掘調査報告書の作成等を実施しています。

平成17年度は、強戸口遺跡群や今井地区遺跡群、重殿遺跡、尾島工業団地遺跡、太田市内遺跡などの遺物整理作業を実施し、発掘調査報告書としては『太田市内遺跡1』を刊行しました。



強戸口遺跡群の接合・復元作業



今井地区遺跡群の図面作成



重殿遺跡の出土遺物

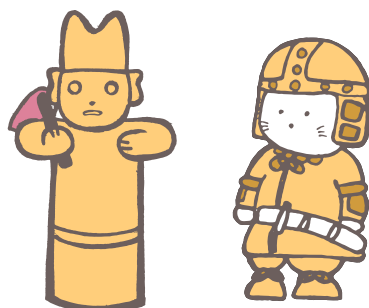
事前協議

平成17年度事前照合件数および調査面積

内 容	公共事業	民間事業	計
事前照合・協議	115件	1,598件	1,713件
試掘調査	9件	22件	31件
立会調査	32件	21件	53件
慎重工事	9件	207件	216件
試掘調査面積	980㎡	2,451㎡	3,431㎡
立会調査面積	6,525㎡	409㎡	6,934㎡
本調査面積	42,330㎡	0㎡	42,330㎡

試掘調査

No.	遺跡名	所在地 (太田市)	試掘 調査月	原因者	No.	遺跡名	所在地 (太田市)	試掘 調査月	原因者
1	向野遺跡	高林東町	H.17.5	民間	17	城ノ内遺跡	八幡町	H.17.10	民間
2	西野西遺跡	藪塚町	H.17.6	民間	18	飯塚古墳群	飯塚町	H.17.10	民間
3	中島遺跡	内ヶ島町	H.17.6	民間	19	高瀬前原遺跡	高瀬町	H.17.10	組合
4	城ノ内遺跡	八幡町	H.17.6	民間	20	西野東中遺跡	藪塚町	H.17.10	民間
5	西野西遺跡	藪塚町	H.17.7	民間	21	道原遺跡	市場町	H.17.10	民間
6	高林本郷遺跡	高林南町	H.17.7	民間	22	中村田遺跡	新田村田町	H.17.12	市
7	小角田前遺跡	世良田町	H.17.8	民間	23	源六堰遺跡	新田下田中町	H.17.12	市
8	川窪遺跡	藤阿久町	H.17.8	市	24	梨子木遺跡	新田花香塚町	H.17.12	市
9	塚本遺跡	台之郷町	H.17.8	民間	25	桑木島遺跡	新田上田中町	H.17.12	市
10	目塚遺跡	内ヶ島町	H.17.8	民間	26	中屋敷東遺跡	新田村田町	H.17.12	市
11	八石遺跡	藪塚町	H.17.8	民間	27	東部地区遺跡群	堀町・岩松町	H.17.12	組合
12	大豆柄遺跡	新田木崎町	H.17.8	民間	28	寺山古墳	強戸町	H.18.1	市
13	国済寺城跡	市場町	H.17.8	民間	29	重殿水源 関連遺跡	新田市野井町	H.18.2	市
14	天神山古墳 中堤帯	内ヶ島町	H.17.9	民間	30	庚申塚遺跡	新田上江田町	H.18.3	民間
15	長福寺遺跡	下田島町	H.17.9	民間	31	向野遺跡	高林東町	H.18.3	民間
16	一町田・ 堀之内遺跡	新田木崎町	H.17.10	民間					





群馬県指定重要文化財「板面著色三十六歌仙図」の修復

世良田東照宮が所有する「板面著色三十六歌仙図」は、各縦52.3cm、横36.5cmの額装で、裏面の墨書銘から狩野源四郎・元俊・休白が描いた36枚の歌仙図です。制作年代は、東照宮が造営された寛永19年(1642)頃と考えられています。

三十六歌仙図は、平安時代に藤原公任が選んだ代表的歌人の秀歌に肖像画を加えたものです。

東照宮が、平成10年度から群馬県及び太田市の補助を受け保存修理等を行ってきたものです。平成16年度までに36枚の内30枚の剥落止めや復元模写の作成が終了しています。17年度は、「清原元輔」「藤原元真」「中務」の3枚を剥落止めや復元模写を作成しました。



中務（修理前）



中務（模写）

模擬火災訓練

昭和24年1月26日は、国宝法隆寺金堂壁画が焼失した日にあたります。

昭和30年、この日を「文化財防火デー」と定めて、毎年全国的に文化財防火運動が実施されています。

本市では、毎年この日に近い日曜日に文化財模擬火災訓練を実施しています。今年度の模擬火災訓練については、平成18年1月22日世良田町にある長楽寺境内で行いました。

訓練は、午前9時から長楽寺本堂南の山林より出火という設定で、発炎筒が点火され、初期消火作業、消防車の出動、一斉放水など一連の作業が手際よく行われました。

来年以降の模擬火災訓練に備えた太田市消防団の正副分団長が、見守るなか地元住民の協力を得ながら見事な訓練を実施することができました。



長楽寺境内での一斉放水の様子



●「木造不動明王立像」が県の指定文化財に

太田市世良田町にある総持寺の「木造不動明王立像」が、群馬県重要文化財として指定をされました。

総持寺は、新田義重の館「新田館」の一隅に建立した護摩堂の本尊であったという寺伝もあることから、新田氏ゆかりの像であった可能性が考えられます。

不動明王立像は、大きさが100.1cm、一木造りの像で、平安時代後期（11世紀後半）の作と推定されます。県内の木彫像で11世紀までに遡るものは極めて少なく貴重な像です。また、東国で制作された可能性が高く、新田氏との関係も考えられ、歴史的にも高い価値を有しています。

総持寺がある世良田町には、長楽寺・東照宮もありますので、散策を楽しみながら文化財めぐりをしてみませんか。



もくぞう ふ どうみょうおうりゅうぞう
木造不動明王立像

●「旧世良田村役場庁舎」「小川家住宅」が登録有形文化財の登録に

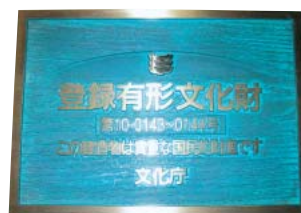
「旧世良田村役場庁舎・正門」（世良田町）と「小川家住宅主屋・長屋門・蚕室」（安養寺町）が、平成17年11月10日に国の登録有形文化財に登録されました。

「旧世良田村役場庁舎・正門」は、昭和3年に旧世良田村役場として建設されたものです。鉄筋コンクリート造2階の建物で、全体が装飾を控えた簡明な意匠で昭和初期の地方庁舎建築の好例として登録されました。

また、小川家住宅の主屋は、切妻造りの2階建ての主体部が古く、西側の寄棟造平屋建は、後世

の改造になります。主体部の軸組や小屋組はよく残り、18世紀末頃の形式を示しています。

また、平成15年1月29日には、片山家住宅（新田溜池町）が登録されています。



登録証



旧世良田村役場



小川家住宅



高山彦九郎記念館講演会

と き：平成17年5月29日（日）

午後1時30分

ところ：太田市商業高校 文化棟 ホール

参加者：160名



講演する金森敦子先生

『江戸の女俳諧師「奥の細道」を行くー諸九郎の生涯』で、第47回日本エッセイスト・クラブ賞を受賞したエッセイストの金森敦子先生を招き、「江戸の旅人たちー松尾芭蕉と高山彦九郎ー」を演題にご講演をいただきました。

江戸時代を代表する二人の旅人、松尾芭蕉と高山彦九郎の旅日記を比較するなかで、旅の期間と歩行距離、旅費（旅籠屋代、わらし代、茶店代、川越し賃など）、宿泊、関所と番所、諸国の単位（距離・銭）について、詳細に説明していただき、江戸時代の旅の諸相をわかりやすい語り口で講演していただきました。

講演を聴いていると高山彦九郎の旅姿が目につかんできて、自分が彦九郎になって旅をし、関所、番所を通過しているような感覚になり、しばし旅を楽しんだようでした。

高山彦九郎記念館案内

- 開館時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
- 休館日 ・月曜日(休日に当たる場合は翌日)
・年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料 個人 100円 団体 80円(20名以上)
※中学生以下は無料となります
- 交通のご案内
・東武伊勢崎線細谷駅下車徒歩10分(800m)
・東武伊勢崎線太田駅下車タクシー10分(5km)
- 駐車場 普通車23台(バスも駐車可能)



高山彦九郎は上野国新田郡細谷村（現太田市細谷町）で生まれた江戸中期の勤労思想家で、後世の幕末の志士たちに大きな影響を与え、明治維新を導いた人物です。江戸・京都・細谷（現太田市）を拠点として、全国各地を遊歴し、学者・文化人だけでなく、京都の公家や諸国の藩主・武士・神官・農民などさまざまな人々と交流しました。彦

九郎の思想と情報は、地域や階層を越えて伝わり、日本の歴史を動かす原動力となりました。

この記念館は、高山彦九郎を再評価し、その人物像を広く知っていただくため、平成8年5月3日に、国指定史跡高山彦九郎宅跡附遺髪塚の隣接地に開館しました。



縁切寺満徳寺資料館 徳川大学講座紹介

資料館では一般市民を対象とした公開講座に所在地名「徳川」を冠して、徳川大学として実施しています。

縁切寺満徳寺は、江戸時代鎌倉の東慶寺と並んで、「世界に2つの縁切寺」でした。太田市徳川町に所在しましたが、この地名は鎌倉時代から現在にいたるもので、徳川氏発祥の地といわれています。新田氏を先祖とした家康は、松平を改め、徳川を称しました。学問的に疑問とされる点もありますが、家康が先祖ゆかりの地と考え、江戸時代を通じて徳川郷(村)を厚く保護したことに由来します。

講演のテーマは、江戸時代と男女同権です。17年度は合併の関係で、前期には開講せず、後期の開催のみとなりました。

■ 第1回 大衆文化講座・落語

と き：平成17年9月28日(金)

午後6時開演

ところ：縁切寺満徳寺復元本堂

演 者：柳家はん治師匠

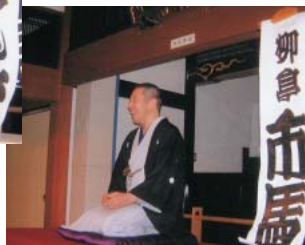
柳家市馬師匠

参加者：125名

はん治師匠には新作を2番。酒屋の主人が別な酒屋ではやく「ぼやき酒屋」と「生簀(いけす)の鯛」、これは動物、それも鯛を主人公としたもので、特異な作品を熱演されました。市馬師匠には古典で有名な「時そば」と群馬県安中が舞台であります「こんにやく問答」を演じていただきました。



柳家はん治師匠



柳家市馬師匠

■ 第2回 伝統文化講座・琵琶

と き：平成17年10月21日(金)

午後6時30分開演

ところ：縁切寺満徳寺復元本堂

演 者：薩摩琵琶錦心流中谷派 荒井姿水師

賛助出演 中国三弦 費 堅蓉先生

参加者：135名

姿水師は文部大臣奨励賞、日本放送協会賞を受賞され、国内外で活発に演奏活動をされています。今回は「祇園精舎」と「俊寛」を演じていただき、またお話もうかがいました。費さんは上海生まれ、自作の独奏曲「辺塞之夜」ほかを演奏されました。



荒井姿水師



費堅蓉先生

■ 第3回 公開講座

と き：平成17年11月19日(土)

午後2時開演

ところ：尾島生涯学習センター

講 師：作家 平岩弓枝先生

参加者：350名

演題は「江戸の元気」で、忠臣蔵・大石内蔵之助没後の家族の末路や歴史資料の小説への活用方法などの話を興味深く話されました。



平岩弓枝先生



友の会主催 「狂言の夕べ」・「東慶寺見学会」

- 復元本堂で平成7年から「狂言の夕べ」を主催してきました。1回目は和泉流の和泉元弥師、3回目以降は山本東次郎師の至芸を堪能して、10年を迎えました。本年は平成17年10月7日(金)、演目は有名な「棒縛」、美男葛をいただいた女性の登場する「賞賀」、めでたい脇狂言「福の神」の3曲のほか、東次郎師による絵解き(解説)と則俊師に「那須の与一語り」を演じていただきました。200名の方にご鑑賞いただき、太田市合併記念を飾ることができました。
- 平成18年2月16日(木) 友の会会員ほか計40名の参加をえて、東慶寺の見学会を催しました。東慶寺では、二分咲きの梅をみながら、墓域から宝蔵、その後書院、本堂を経て、水月観音を特別拝観。昼食を「鉢の木」でいただいて、東慶寺住職・井上正道和尚にご案内いただき、円覚寺の国宝・舍利殿と隣の僧堂を特別に拝観しました。



狂言・棒縛り



国宝・舍利殿を見学する友の会会員

縁切寺満徳寺資料館案内



復元された本堂

平成18年度企画展
「女大学の世界」
ポスター

平成17年度企画展
「三くだり半No.1」の図録表紙



縁切寺は江戸時代、夫の不法に泣く女性を救済して、夫との離婚を達成させる聖所でした。これをアジール(避難所)といいますが、最終的に幕府(国家)権力を直接の後盾として離婚を強制する制度はほかにありません。ですから満徳寺は鎌倉の東慶寺とともに「世界に二つの縁切寺」だったのです。旧尾島町では文化的・歴史的意義を高く評価して、資料館とその後本堂を復元、旧境内を整備しました。

資料館では、春秋年2回企画展を行っています。かつて縁切寺であったことから「三くだり半」をテーマとした企画展を18回、特別展を7回開催しました。17年度は合併記念として「三くだり半No.1」展で、最古・最新、最長16行半、最短1行半などの離縁状を展示しました。18年度春の企画は合併1周年記念として、特別展「女大学の世界」を4月29日～6月11日に開催します。(HPは <http://www8.wind.ne.jp/mantokuji/>)

- 開館時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
- 休館日 ・月曜日(休日にあたる場合は翌日)
・年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料 個人 200円 団体 160円(20名以上)
※中学生以下は無料となります



藪塚本町歴史民俗資料館案内

- **開館時間** 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
- **休館日** ・月曜日(休日に当たる場合は翌日)
・年末年始(12月29日～1月3日)
- **入館料** 個人 100円 団体 80円(20名以上)
※中学生以下は無料となります
- **住所** 〒379-2301 太田市藪塚町149
☎0277-78-5728

当館は故今井新次氏によって町内外から収集された埋蔵文化財が寄贈されたのを期に昭和53年に開館しました。石田川式土器をはじめ、石之塔遺跡出土の土製耳飾りや市内各地より出土した埴輪を展示しています。

このたび古代衣装の展示や、耳飾り(レプリカ)に触れていただくスペース、縄文の森をイメージしたスペースなどを加え展示を一新しました。これからも市内で出土した遺物などを市民のみなさんに親しんでいただけるような手法で展示してまいりますので、ぜひ一度おこしください。



新しい公共空間を目指して

文化財課長 宮田 毅

史跡金山城跡の第1期整備事業は、平成6年度に日ノ池整備からスタートし、順次西の方へと整備を進めてきました。わかりやすい整備を目指し、尾根部に遺る城郭遺構の顕在化を図ることにより、往時の城の景観を再現することに努めてきました。お陰で、来訪者も多くなり、周辺の保育園や幼稚園の遠足も復活してきました。そうした中で、平成17年度に第2期整備基本構想を策定し、引き続き18年度には第2期整備基本計画を策定しました。

この中では、柱の一つとして、ボランティア団体の活動拠点と情報発信を行なう基盤整備を掲げ、来訪者への総合的な解説を行なうガイダンス施設と、体験学習やボランティア団体の活動・交流の拠点となる地域交流センターの建設を計画しております。史跡に興味のある方だけでなく、より多くの方々に、積極的に活用していただきたいと願っています。

金山城跡や新田荘遺跡などの史跡や文化財を後

世へ伝えていくには、存在価値や意義が広く理解されていることはもちろんですが、多様なニーズや意見に対応していく必要もあるでしょう。

いままでは行政が歴史学習の「機会」や「場」を提供し、市民は提供されたものから選択して参加するという形がほとんどでした。どちらかといえば、受動的だったといえるでしょう。しかし、こういう形では十分な満足がえられなかったのではないのでしょうか。市民が十分な満足を得るためには、構想や計画の段階から参画することがニーズに適合した事業展開の重要な要素になってくるように思います。

いま、建設を計画しているガイダンス施設や地域交流センターにおいては、市民がこれらの管理や運営に「参画」し、行政と市民が「協働」する形ができ、またそこから新たな事業が派生し展開されて行くような新しい公共空間づくりができればと考えております。

- 太田市のホームページアドレス● <http://www.city.ota.gunma.jp/>
- 文化財課● Eメール 042000@mx.city.ota.gunma.jp